

とやまの森を守り育てるために

平成29年4月1日から

県民参加による「水と緑の森づくり」

が新たにスタートします。

水と緑に恵まれた県土を支える多様な森づくりと、とやまの森を支える人づくりなどを
実施するための財源として、「水と緑の森づくり税」を平成19年4月から導入しています。

新たな『富山県森づくりプラン』の概要

～とやまの森を守り育てるために～

【計画期間：H29～38】

基本指針

- 目指すべき森林の姿
- 県民参加による森づくり

⇒天然林を「里山林」と「保全林」、人工林を「生産林」と「混交林」に区分し、森林の状態や、地域のニーズ等を踏まえ、多様な森づくりを推進します。
⇒森づくりを推進するにあたっては、計画、実行、評価、改善の各プロセスにおいて、幅広い県民の参加を得ながら進めます。

混交林の整備 整備目標 500ha

奥地の人工林や竹の侵入した人工林を広葉樹との混交林へ誘導するとともに、森づくりに活用する県産広葉樹苗を県民協働で育成します。



手入れ不足により竹が侵入した人工林

優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の植栽 植栽目標 460ha

森林資源の循環利用と、花粉症対策の一環として、優良無花粉スギ「立山森の輝き」の苗木を生産し、スギ人工林の伐採跡地に植栽します。



「立山 森の輝き」の苗畑



スギ伐採跡地の植栽

水と緑に恵まれた県土を支える多様な森づくりの推進



保全林

原則として、自然の推移に委ね木材資源の確保と公益的機能の維持・向上の両立

生産林

持続的木材生産に重点

里山林

地域ニーズ等に対応した多様な里山の再生

海岸林

里山林の整備 整備目標 2,000ha

生活に利用されなくなり、うっそうとした里山林を、野生動物との棲み分けや景観の保全などを目指し、県民協働により整備します。

新たに

- 海岸林での重点的な松くい虫被害対策
- 拡充
- 流木防止のための里山林の機能強化



見通しが悪く林内が暗い里山林



県民参加による里山林の整備



生活や富山海の景観を守る海岸林



松くい虫による松枯れの状態

とやまの森を支える人づくりの推進

森林ボランティア活動の支援

とやまの森づくりサポーターセンターによる、森づくり活動に必要な機材の貸出しや、安全講習など、森林ボランティア活動を専門的・総合的に支援します。

新たに

- 里山林の維持管理を一層推進するため サポーターを養成
- 拡充
- 企業の森づくりの推進

森づくりへの理解を醸成する取り組み

児童、生徒など広く県民を対象とした「森の寺子屋」の開催や、県民が企画し実践する森づくり活動への支援、森づくり情報の提供などを行います。

拡充

- 「森林浴の森」を活用した森林教室の開催

森林資源の循環利用の推進

森づくりにつなげる県産材利用の推進
共施設等の木質化や県産材遊具の導入支援、木育の推進など、森林資源の循環利用を進めます。

- 公共施設等の木造化や木製品の導入等を支援
- 拡充
- 木育を推進するための県産材大型遊具などの設置等



県産材を利用した備品導入

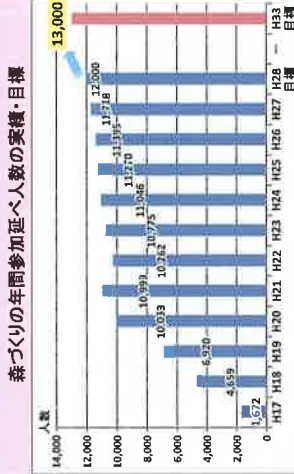


公共施設等の木造化



県産材遊具の設置

森づくりの年間参加延べ人数 目標 13,000人



「森林浴の森」等の野外での森林教室



里山林整備の手助けを行うサポーターの養成



県産材遊具の設置

必要な事業費と水と緑の森づくり税

森づくりの取り組みに必要な事業費(10年間)38.5億円

【課税期間】

平成29～33年度まで5年間の延長

【税額の見直し】

以下により、必要な財源を確保します

《個人》現行どおり年間500円
《法人》資本金等が10億円を超える大企業は増額税額(年間)

資本金等	現行	改正
100億円超	80,000円	100,000円
50億円超	60,000円	80,000円
10億円超	27,000円	40,500円
1億円超	6,500円	6,500円
1千万円超	2,500円	2,500円
1千万円以下	1,000円	1,000円

※年間税込総額 3.82億円